

# 2021年12月期（第108期） 通期 決算概要資料

日華化学株式会社  
(証券コード：4463)

2022年2月10日

## 1. 2021年度 業績

2021年度 通期 経営環境	4
2021年度 通期 決算サマリー	5
セグメント別業績	6
売上高 増減要因(対前年)	7
経常利益 増減要因(対前年)	8
特別損益	9
化学品セグメント 業績詳細	10
化粧品セグメント 業績詳細	11
連結キャッシュフロー	12
主な経営指標	13
設備投資・減価償却、有利子負債 推移	14
2021年度 通期 決算総括	15
中計初年度進捗状況	16
2021年度 下期トピックス	18~21

## 2. 2022年度 通期業績・配当予想他

2022年度 通期 経営環境想定	23
2022年度 通期 業績・配当予想	24
セグメント別 通期 業績予想	25
2023年度 中期経営計画 目標数値	26
設備投資計画	27
執行体制について	28

## 3. 参考情報











財務データ等推移	30
事業所・所在地別 売上高比率	31
会社概要	32

# 1. 2021年度 通期 業績

---

繊維加工の一部とサービス産業関連分野はコロナ禍の影響を受けた一方、中国市況・自動車分野の回復など需要回復が見られ、電子材料・コロナ対応薬剤分野・ODM分野は好調も、下期に需要回復の落ち着き、原料高の影響が見られた

■ 事業分野外部環境等（コロナ禍の影響含む）

繊維加工	日本		一部のカジュアル衣料小売りで回復を見せたものの、スーツ・中高級アパレルは厳しさが続いた 衛生材料・産業資材分野は好調だったが落ち着きを見せた
	海外		中国は内需好調でアパレル消費・生産とも大きく回復も落ち着きを見せた。欧米アパレルも回復し生産拠点のアセアン、南西アジアの繊維加工も上向いたがBCレベル回復には至らず
自動車	日本・海外		販売 4Q/QoQ/日本(軽含)△20%、中国△2%、米国(小型トラック含)△22% 半導体不足で日米大幅減 4Q/YoY/日本△3.4%(△14万台)中国+6.6%(+133万台)米国+3.0%(+44万台)
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙は需要減継続、家庭紙・衛生紙は横ばい、板紙はEC需要もあり堅調
クリーニング	日本		人流低下等によりクリーニング業は厳しい状況継続 宿泊・飲食に関わるリネンサプライ業も同様に4Qは回復傾向
電子材料	日本		コロナ禍による需要の変化（PC、TV、白物家電）でレガシー（成熟領域）半導体の需要が増加
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤/需要、用途拡大も4Qにかけて拡大スピード鈍化 手指消毒剤/需要は落ち着き在庫過多もあり価格競争激化 医療用洗浄剤/外来・在院患者減で治療・手術件数減少、健診受診者数減少も4Qは回復傾向
ヘアケア化粧品	日本		年初来長期にわたる緊急事態宣言等により、前年比で美容室来店客数は低調も客単価は上昇 ODM需要は今後の回復を見越し好調に推移
	海外		韓国/コロナ禍における営業時間短縮、店内人数制限等により美容室への来客数に影響があった
数値指標 (前年比)	為替		期中平均 円/米ドル・109.85円で2.9%円安、中国元10.3%円安、ウォン6.1%円安
	国産ナフサ	-	1Q/38,800円(QoQ△13.4%)、2Q/47,700円(QoQ+90.8%) 3Q/53,500円(QoQ+77.2%)、4Q予想/60,400円(QoQ+93.0%)

コロナ禍の影響を受けながらも、各事業分野で需要回復が見られ(特に上期)、新規分野や大口受託案件等が伸長した下期は原料高騰の影響を受けたものの、経費抑制、減価償却費減少もあり通期では大幅な増収増益となった

単位：百万円

	2020年度	2021年度	増減率	公表値 (10月28日)	達成率
売上高	41,179	<b>48,474</b>	+17.7%	47,500	+102.1%
営業利益 (営業利益率)	1,416 3.4%	<b>2,453</b> 5.1%	+73.2%	2,400 5.1%	+102.2%
経常利益	1,645	<b>2,706</b>	+64.5%	2,600	+104.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,044	<b>2,595</b>	+148.5%	2,350	+110.5%
年間配当(円)※	10	<b>22</b>	-	22	-

※期末配当14円については3月25日開催の株主総会で決議予定

化学品・化粧品事業共に増収となり、経費抑制、減価償却費減少も相まって各事業とも大幅増益となったが、特に化学品の収益が大幅に改善した

単位：百万円

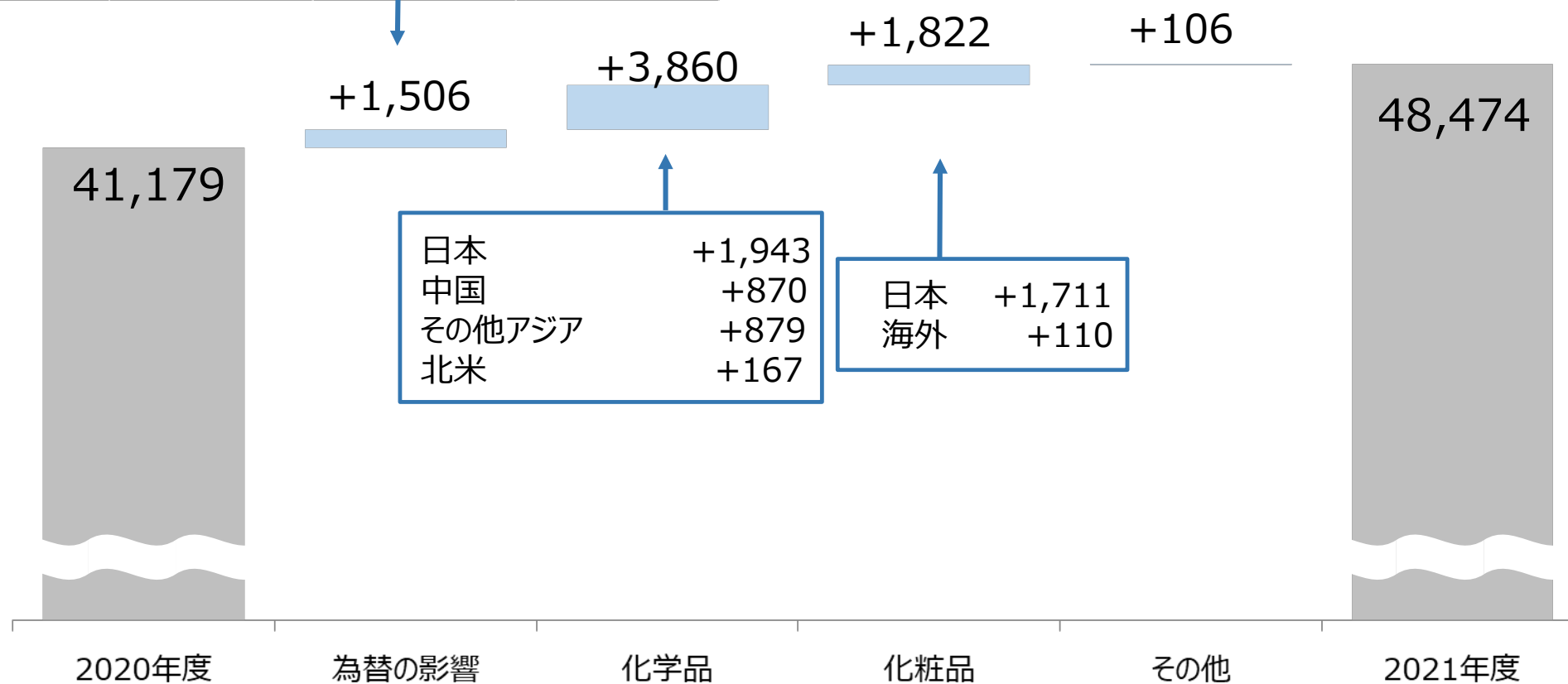
セグメント	2020年度		2021年度		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	28,496	842	<b>33,773</b>	<b>1,460</b>	+5,277	+18.5%	+618	+73.4%
化粧品	12,175	2,250	<b>14,087</b>	<b>2,794</b>	+1,911	+15.7%	+544	+24.2%
その他	506	43	<b>612</b>	<b>72</b>	+106	+21.0%	+29	+67.9%
消去等	-	-1,720	-	<b>-1,874</b>	-	-	<b>△154</b>	-
合 計	41,179	1,416	<b>48,474</b>	<b>2,453</b>	+7,294	+17.7%	+1,037	+73.2%

# 売上高 増減要因 (対前年)

円安による影響で+15億円、化学品事業で+38億円、化粧品事業で+18億円の増収となり  
 化学品、化粧品ともに各地域で増収となった

期間為替	2020年度	2021年度	備考
米ドル	106.67	<b>109.85</b>	2.9%円安
中国元	15.44	<b>17.03</b>	10.3%円安

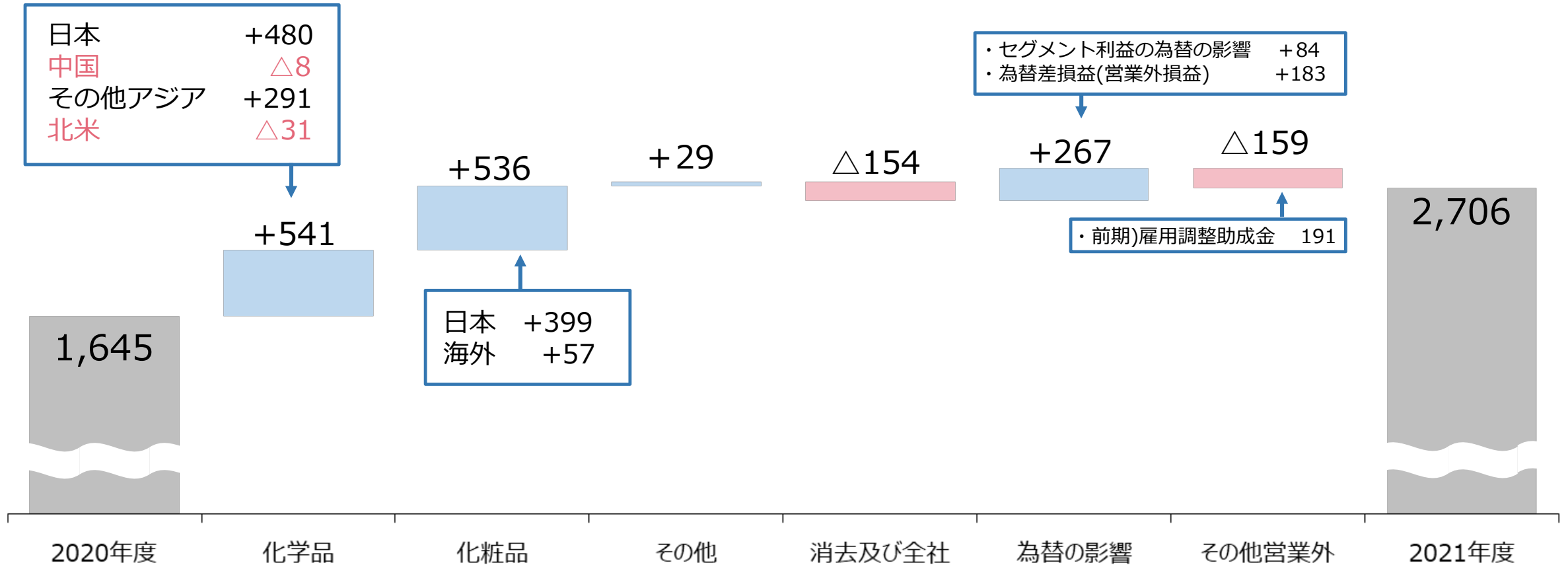
単位：百万円



# 経常利益 増減要因 (対前年)

化学品事業で+5億円、化粧品事業で+5億円の増益となり、日本とその他アジアでの増益が顕著であった  
円安による為替の影響も増益要因となった

単位：百万円





## 固定資産売却益、投資有価証券売却益により特別利益が大幅増となった

単位：百万円

	2020年度	2021年度	増減額	増減率
特別利益	150	<b>816</b>	+665	+441.0%
特別損失	25	<b>61</b>	+36	+142.3%

特別利益	
・固定資産 売却益	607
・投資有価証券 売却益	135
特別損失	
・投資有価証券 売却損	33

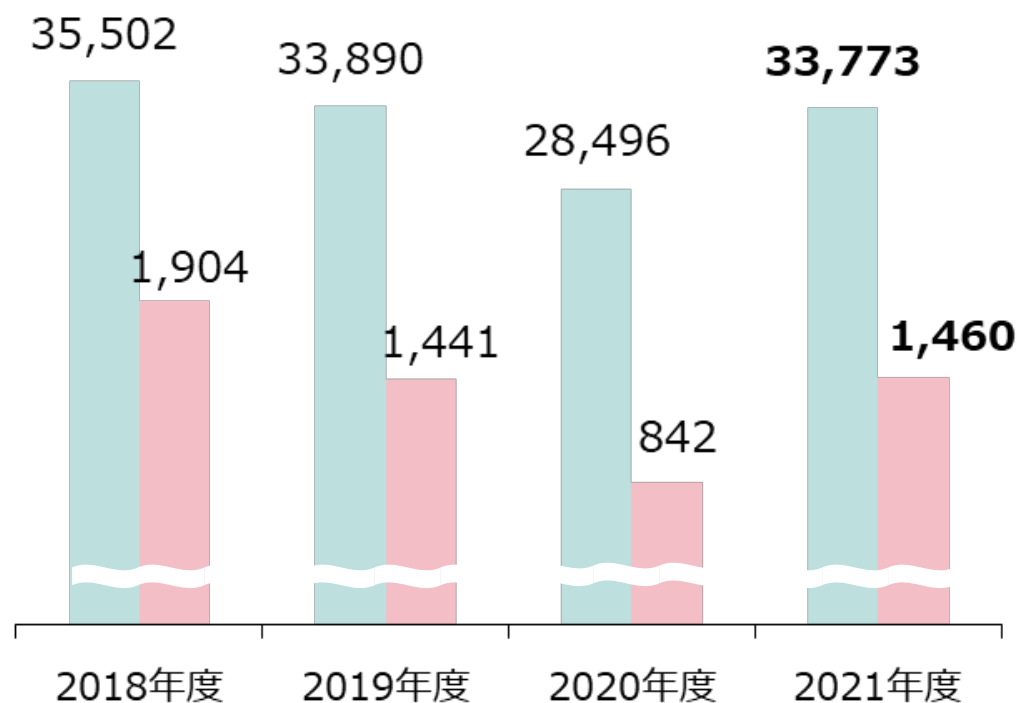
国内外でコロナ禍の影響が残る中、新規分野関連が伸長し、各分野で需要回復も見られ、経費抑制、減価償却費減と相まって大幅増収・増益となったが、下期は需要が落ち着き、原料高の影響が顕著となった

単位：百万円

## 業績推移

単位：百万円

■ 売上高 ■ セグメント利益



地域別売上高	2020年度	2021年度	増減額	増減率
日本	12,600	<b>14,543</b>	+1,943	+15.4%
中国	5,095	<b>6,635</b>	+1,540	+30.2%
その他アジア	9,846	<b>11,436</b>	+1,590	+16.2%
北米	954	<b>1,157</b>	+203	+21.3%
合計	28,496	<b>33,773</b>	+5,277	+18.5%

※為替影響 +1,416百万円

## 前期比概要

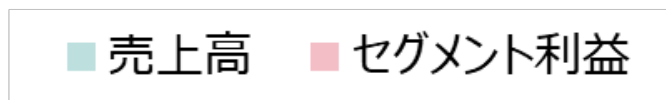
1. EHD関連の特殊樹脂モノマー、環境衛生薬剤、フッ素化成品販売堅調
2. 繊維化学品分野は中国国内向け等海外で回復後、需要は落ち着いたが新規素材ビジネスが伸長
3. 非繊維分野も含めて自動車分野回復も半導体供給不足の影響あり
4. 国内／クリーニング、リネン用既存低調も抗ウイルス加工剤が好調
5. 設備投資の減価償却費が減少した一方、下期で原料高顕著

国内外とも市況悪化の影響は受けたものの、主力ヘアケアブランドの拡販、ODM事業の大口顧客受注増・新規顧客獲得増で大幅な増収増益となった（売上・セグメント利益とも過去最高）

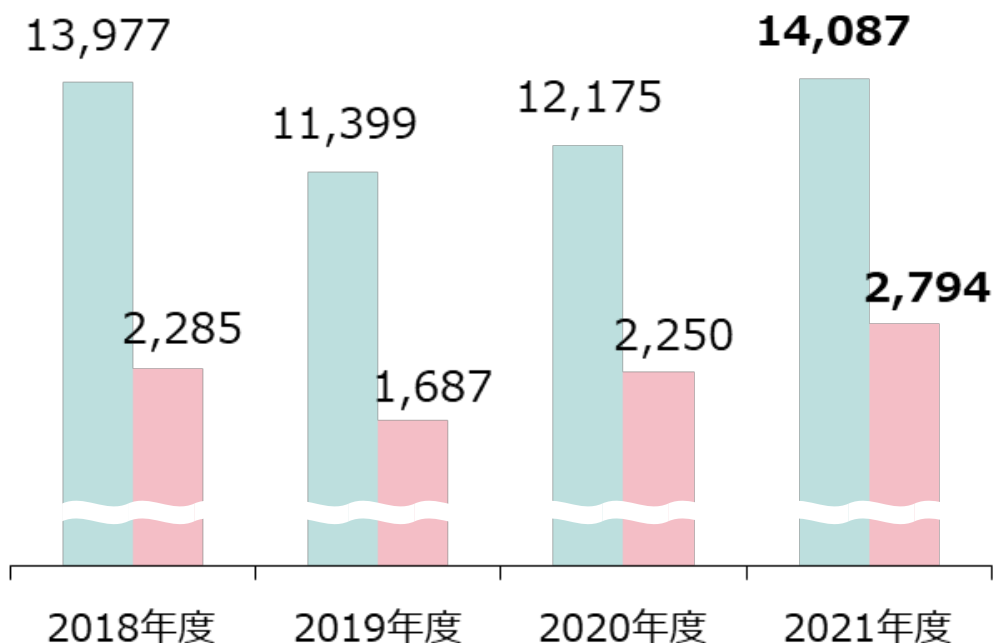
単位：百万円

## 業績推移

単位：百万円



地域別売上高	2020年度	2021年度	増減額	増減率
日本	10,816	<b>12,528</b>	+1,711	+15.8%
海外	1,359	<b>1,559</b>	+200	+14.7%
合計	12,175	<b>14,087</b>	+1,911	+15.7%



※為替影響 +89百万円

## 前期比概要

1. 日華化学／長期にわたる緊急事態宣言等による市況悪化の影響を受けたものの主力ヘアケアブランドの拡販等により堅調
2. 山田製薬／ODM事業の大口顧客受注増・新規顧客獲得増で大幅増収増益
3. デミコリア／美容室来店客数は回復には至っていないものの、新規取引先開拓、新商品効果で増収増益

営業CFはEBITDA49億円により、47億円を獲得

投資CFは固定資産及び有価証券の売却、固定資産の取得及び定期預金の預け入れにより9億円を支出

財務CFは借入金返済45億円などにより50億円を支出

単位：百万円

連結CF	2020年度	2021年度	増減額
営業CF	6,479	<b>4,722</b>	<b>△1,757</b>
投資CF	-1,549	<b>-994</b>	+554
財務CF	-3,626	<b>-5,024</b>	<b>△1,398</b>

指標	2020年度	2021年度	増減額
期末現預金残高	7,962	<b>7,659</b>	<b>△303</b>
有利子負債	16,301	<b>11,700</b>	<b>△4,600</b>

【連結CF】 2021年度 主な要因

	2021年度	(増減額)
● 営業CF +4,722		
✓・EBITDA	+4,953	(+766)
・運転資金の変動	-94	(△2,116)
・法人税等の支払額	-724	(△321)
・その他	+587	(△86)
● 投資CF -994		
・有形固定資産取得	-1,443	(△108)
・定期預金増減 (△増加)	-476	(△81)
✓・有形固定資産売却	+818	(+736)
・有価証券売却	+212	(+191)
● 財務CF -5,024		
✓・借入金の返済	-4,575	(△1,354)
・配当金の支払	-418	(△92)

増益によりROA、ROE、EBITDA、いずれも大幅に向上した  
 自己資本比率も、主に利益剰余金、為替換算調整勘定の増加に加え、借入金45億円の返済により大幅に向上した

金額単位：百万円

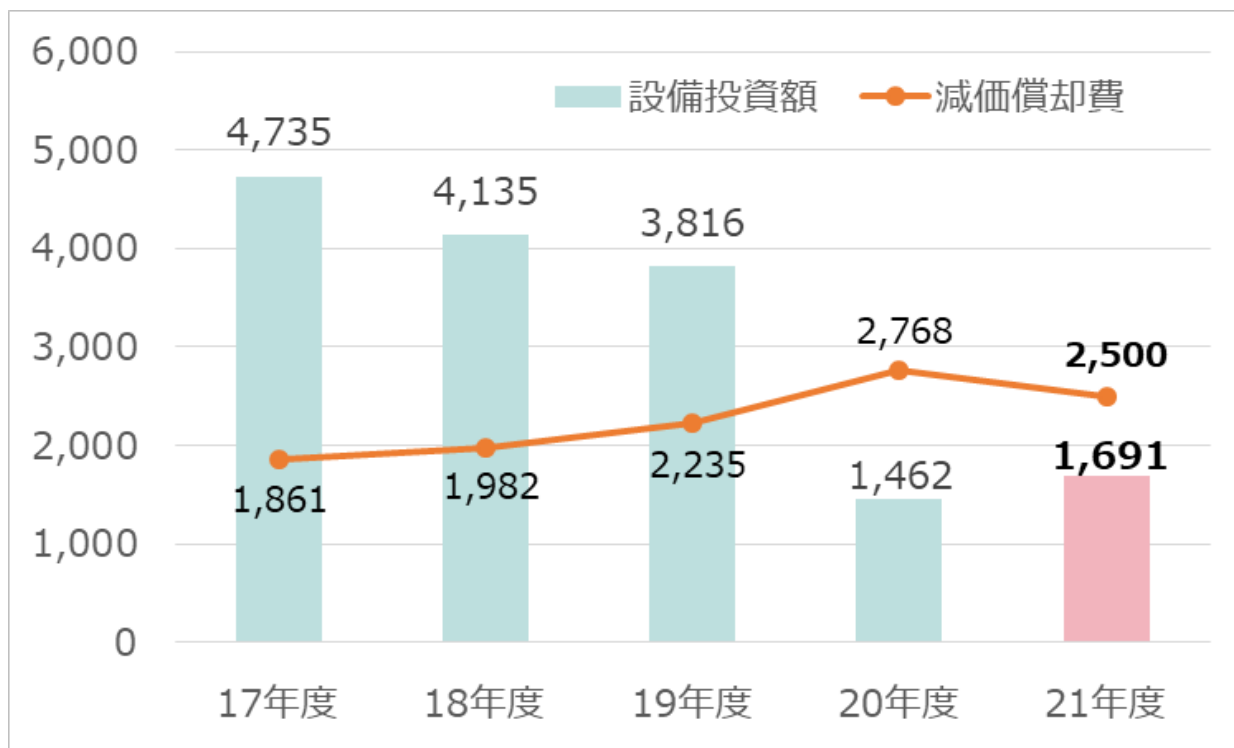
指 標	2020年度	2021年度	増減率・額
ROA(営業利益)	2.6%	<b>4.6%</b>	+2.0ポイント
ROE(当期純利益)	5.1%	<b>11.3%</b>	+6.2ポイント
EBITDA	4,187	<b>4,953</b>	+766
(減価償却費)	2,768	<b>2,500</b>	△267
指 標	2020年度	2021年度	増減率
自己資本比率	39.5%	<b>45.9%</b>	✓ +6.4ポイント

# 設備投資・減価償却費、有利子負債残高 推移

設備投資は前中計で大型投資を完了し、生産性向上、効率化のためのDX関連、既存設備更新等を実施  
有利子負債残高はピークの2019年末比で△78億円（△40%）減

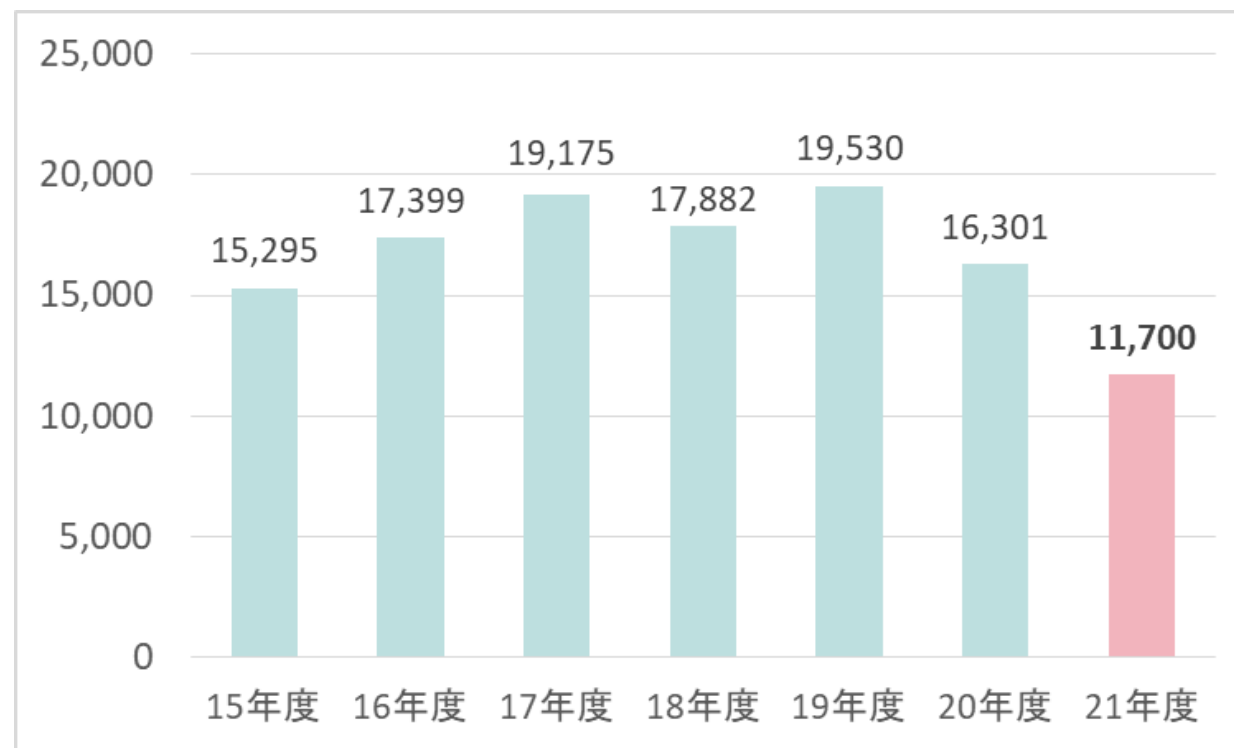
設備投資額 および 減価償却費

単位：百万円



有利子負債残高

単位：百万円



## 増収増益

- 化学品事業、化粧品事業共に新規分野の伸長等好調に推移し **大幅な増収増益を達成した**
- 継続的なキャッシュフロー改善に伴う **有利子負債圧縮により自己資本比率が大幅に改善した**
- 下期は需要回復が落ち着き、4Qは原料高の影響を大きく受けた

売上高 (+17.7%、化学品+18.5%、化粧品+15.7%)

- ・コロナ禍の影響を受けながらも、各事業分野で需要回復が見られた
- ・新規分野や大口受託案件等が伸長した
- ・地域別でも、国内だけではなく海外の各地域において回復や伸長が見られた

営業利益 (+73.2%、化学品+73.4%、化粧品+24.2%)

- ・売上増はもとより経費抑制の効果も寄与した（販管費率が低下した）
- ・化学品は減価償却費減の影響もあった
- ・4Qは原料高の影響を大きく受けた

財務状況

- ・キャッシュフロー改善に取組み有利子負債返済を進めるなどした結果、自己資本比率が'19年年末比で9.3ポイント  
'20年年末比で6.4ポイント向上した

全社戦略に紐づく取り組みとKPIが大きく前進、向上。特に財務体質が飛躍的に改善

## FY2019 FY2021

### EHD事業

- EHD売上高：約110億円
- EHD比率：約25%

- EHD売上高：約145億円
- EHD比率：約30%

### 生産性向上

- PH売上高：30.8百万円/人
- PH営業利益：933千円/人

- PH売上高：33.3百万円 (+8%)
- PH営業利益：1,687千円 (+80%)

### 財務基盤

- 有利子負債：195億円
- 自己資本比率：36.7%
- EBITDA：36億円

- 有利子負債：117億円
- 自己資本比率：45.9%
- EBTIDA：49億円

### サステナビリティ

- 「日経SDGs」2年連続★★★獲得（2020/2021年）
- 福井県内事業所、再生可能エネルギー100%切り替え（2021年7月）
- 「EraL」をサステナブルブランドに刷新（2021年4月）
- 「えるぼし」★★★取得（2020年12月認定）

### 大家族主義



## 2. 2021年度 下期トピックス

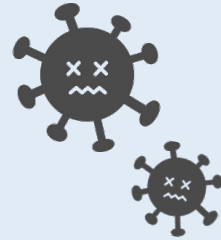
---

**E**  
環境

**H**  
健康衛生

## あらゆる繊維素材で洗濯後も効果が持続する 革新的な抗ウイルス加工処方を開発（10月）

- 当加工処方の特長
  - ・ **あらゆる繊維素材**でISO/JIS基準の**耐洗濯性**をクリア
  - ・ **安全性**が非常に高く、皮膚刺激性は従来技術の**約5分の1**
  - ・ 従来技術と比較し**約7倍の抗ウイルス性**を発揮
  - ・ 当加工技術による染色加工場の排水処理負荷が極めて少なく**環境にやさしい**



- ▶ 2021年9月より営業展開を開始し、お客様からの引き合い多数。拡大する市場ニーズに応えていく
- ▶ 不織布、合成皮革、フィルム、塗料・コーティング等、繊維素材以外の分野へも展開を進めている

## 「FLOWDIA(フローディア)」フルリニューアル（9月）

H  
健康衛生

E  
環境

誕生から10年、さらなる進化を遂げてフルリニューアル。

髪のダメージを選択的に補修する**コア技術「バルネイドシステム」**と  
髪の記憶による結合の乱れを整える**新技術「ボンデイドシステム」**で  
これまでのヘアケアの常識を超えた新質感を叶えます。



### サステナブルな社会のための取り組み

- プラスチック容器では、サトウキビ由来で環境への負荷が少ないバイオマスPET・バイオマスPEを使用（\*1）
- 個装箱と主要販促物では、FSC®認証紙（\*2）を使用



# DEMI

\*1 一部の製品（ミニヘアケア、アルミパック）を除く

\*2 FSC®認証紙：Forest Stewardship Council®（森林管理協議会）によって認証された、適正に管理された森林木材による紙製品のこと。

サステナビリティ方針を策定しマテリアリティと共に公表(12月)  
SDGs、ESGに関する取り組み内容をわかりやすくHPに掲載



## 環境 地球環境をもっときれいに

(一部抜粋)



- ・2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を30%削減へ（2018年比）
- ・地球環境に関する社会的課題を解決する事業に注力することで持続可能な社会と循環型経済の実現に貢献

## くらし 人々のくらしと生活を快適に



- ・スポーツアパレルへの機能加工やクリーニング用薬剤など健康で清潔なくらしに貢献する製品を提供
- ・髪健康と美しさを追及する画期的な化粧品の開発

## 社会 社会をより豊かに



- ・多様な人材が集い、高いモチベーションで持てる力を最大限発揮できるように“大家族主義”を進化させる
- ・「人材」の多様性と「働き方」の多様性を尊重するダイバーシティの深耕
- ・健康経営の推進

## 東証 新市場区分における「プライム市場」を選択（10月）












- ・持続的な企業価値向上のためにプライム市場が適していると考え
- ・プライム市場企業に求められる、より高いコーポレートガバナンスコードへの対応も企業価値向上に繋がるものと考え
- ・グローバルでビジネスを展開している当社グループにとって、プライム市場のコンセプトがマッチしており、ビジネスパートナー、投資家様との関係性や信用等、さまざまな面でメリットが高いと考え

## 3. 2022年度 通期業績・配当予想他

---

## BCレベルまでの回復には至らないものの、ウィズコロナで21年比並みの経済活動ベースとなり、半導体、環境関係分野は継続して伸長すると見込む

### ■ 事業分野外部環境／2022年通期想定

繊維加工	日本		消費動向の一部回復によりアパレル販売に改善が見られるものの、本格的回復は不透明 衛生材料・産業資材分野は堅調が続く見通し
	海外		中国内需向け、欧米向け加工は前年並みの見通し。BCレベルへの回復にはまだ時間を要する
自動車	日本・海外		調達危機の影響は持続する見通しも21年比で緩和する見込で、各社挽回生産注力によりグローバル生産台数は前年同期比12.5%、958万台増の8,600万台の見込
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙は需要減継続、家庭紙・衛生紙は横ばい、板紙はEC需要もあり堅調継続
クリーニング	日本		クリーニング、宿泊、飲食各業界ともコロナ禍における生活スタイルの浸透に伴い少し上向く見込
半導体	日本		5Gによる通信量拡大とデータセンターが伸長 メタバース（巨大仮想空間）の期待も高まり半導体需要も継続した伸びを示す
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤／需要、用途の拡大スピードは鈍化も一定の市場が拡大 手指消毒剤／需要落ち着き在庫過多、価格競争激化状態継続 医療用洗浄剤／'21年後半から回復基調にあり'22年はさらに回復する見通し
化粧品	日本		ウィズコロナの生活様式が定着しコロナ前と比べて9割経済が続く前提 美容室は来店サイクルがBCには戻らず客単価UPのため追加メニューや店販強化が一層進む
	海外		韓国／感染拡大傾向が止まらず美容室来店客数は2021年度並みとなる見込み
数値指標	為替	－	前提 期中平均 円/米ドル・110円的前提
	国産ナフサ	－	前提 55,000円

※緊急事態宣言・ロックダウンの長期化等、新型コロナウイルス感染症による影響が現況に比して悪化した場合は、外部環境も悪化する可能性があります

販売増による増収を計画しているものの、原材料の高騰及び事業活動活発化のためのコスト増を予想  
2022年度より「収益認識に関する会計基準」を適用するため新基準での予想を表示

単位：百万円

	2021年度 実績	2022年度 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	48,474	<b>48,500</b>	—	—
営業利益 (営業利益率)	2,453 5.1%	<b>2,100</b> 4.3%	—	—
経常利益	2,706	<b>2,300</b>	△406	△15.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,595	<b>1,200</b>	△1,395	△53.8%
年間配当（円）	22	<b>22</b> 〔中間11円 期末11円〕	—	—

※2022年12月期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した金額となっており、売上高及び営業利益につきましては、対前期増減額及び増減率は記載しておりません。



# セグメント別 通期 業績予想

新基準の適用や原材料の高騰等を織り込んでおり各セグメント共に増収減益を予想するものの実質的な成長を計画  
 中期経営計画の達成に向けた取り組みを引き続き実施していく

単位：百万円

セグメント	2021年度 実績		2022年度 予想		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	33,773	1,460	<b>34,200</b>	<b>1,200</b>	-	-	-	-
化粧品	14,087	2,794	<b>13,500</b>	<b>2,550</b>	-	-	-	-
その他	612	72	<b>800</b>	<b>50</b>	+187	+30.6%	△22	△31.0%
消去等	-	<b>-1,874</b>	-	<b>-1,700</b>	-	-	+174	-
合 計	48,474	2,453	<b>48,500</b>	<b>2,100</b>	-	-	-	-

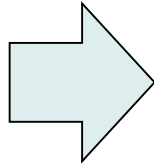
※2022年12月期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した金額となっており、売上高及びセグメント利益の一部につきましては、対前期増減額及び増減率は記載していません。

## 新基準でもINNOVATION25の2023年度目標数値は変更せず達成へ

### 3カ年経営目標数値（2023年度）

※2021年2月26日 公表

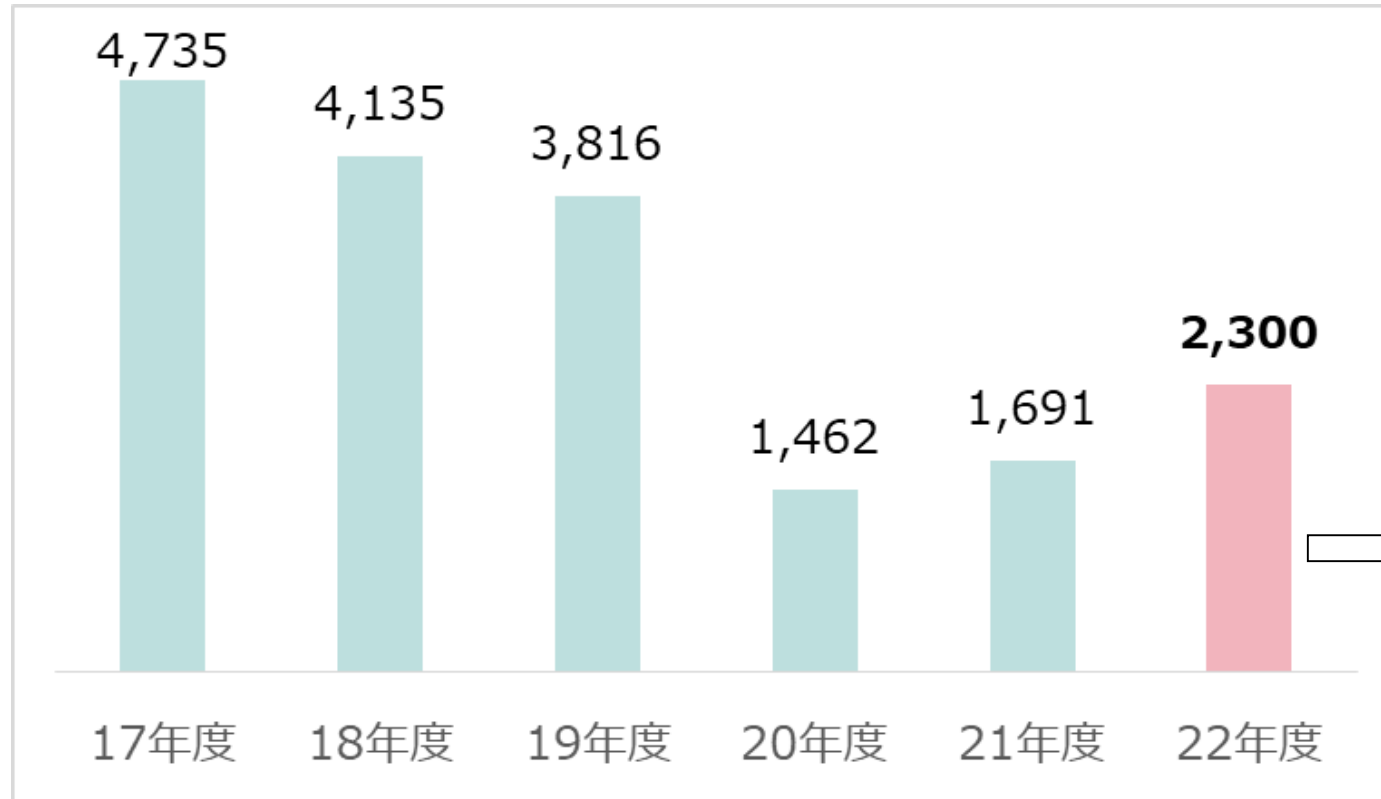
項目	修正前	修正後	補足
	目標数値 (従来基準)		
売上高	500億円	500億円	各目標数値については、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）適用後の値です
営業利益	25億円	25億円	
EBITDA	50億円	50億円	
ROS	5%以上	5%以上	
ROE	5%以上	5%以上	
ROA	4.5%以上	4.5%以上	



## 生産性向上、効率化のためのDX関連投資他を推進

設備投資額

単位：百万円



化学品	1,400百万円
化粧品	300百万円
共通	600百万円

江守 康昌	代表取締役	社長執行役員	CEO	
龍村 和久	代表取締役	副社長執行役員	COO	化粧品部門長 デミコスメティクスカンパニープレジデント
片桐 進	取締役	常務執行役員	COO to Chemicals	化学品部門長
澤崎 祥也	取締役	執行役員	CFO (Administration)	管理部門長
李 晶日	取締役	執行役員	中国事業統括	日華化学 (中国) 有限公司 総経理
稲継 崇宏	取締役	執行役員	CTO	化学品部門 界面科学研究所長
藤森 大輔	取締役	執行役員	COO to Cosmetics	化粧品部門 副部門長
高橋 誠治		執行役員	CIO	情報戦略本部長 兼 全社オペレーション担当
坪川 恒一郎		執行役員		化粧品部門 デミコスメティクスカンパニーバイスプレジデント
籠谷 正		執行役員		大智化学産業株式会社 代表取締役社長
佐谷 義寛		執行役員	CHO	経営企画本部長
島田 昌和		執行役員		化学品部門 スペシャルティケミカル事業部長
三井 彰弘		執行役員	製造統括	プロダクション部門長
日置 由美子		執行役員	品質統括	品質保証本部長
小林 淳孝		執行役員		化学品部門 繊維化学品事業部長
中川 大輔		執行役員 (新任)		化学品部門 クリーニング&メディカル事業部長

## 4. 参考情報

---

単位：百万円

項目	2013/3	2013/12	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12
売上高	31,651	33,584	39,931	46,527	44,223	48,493	50,188	46,191	41,179	48,474
EBITDA のれん償却額反映	3,008	4,525	4,697	4,696	3,174	4,056	4,292	3,635	4,187	4,953
(EBITDA率)	9.5%	14.2%	11.6%	9.9%	7.2%	8.2%	8.5%	7.9%	10.2%	10.2%
減価償却費 のれん償却額含む	1,349	1,584	1,832	2,332	1,716	1,940	1,991	2,240	2,771	2,500
営業利益	1,659	2,941	2,865	2,364	1,458	2,116	2,301	1,395	1,416	2,453
(営業利益率)	5.2%	8.8%	7.2%	5.1%	3.3%	4.4%	4.6%	3.0%	3.4%	5.1%
経常利益	1,798	3,280	3,073	2,443	1,588	2,171	2,430	1,334	1,645	2,706
親会社株式に帰属する当期純利益	1,261	2,678	1,447	1,152	347	1,388	2,458	900	1,044	2,595
1株当り当期純利益(円)	71.65	152.20	82.22	70.13	22.09	88.48	156.68	57.33	66.40	164.82
配当金(円)	15	16	16	20	20	16	18	16	10	22
自己資本比率	32.7%	40.1%	45.2%	36.4%	33.3%	34.4%	35.6%	36.7%	39.5%	45.9%
ROE	11.4%	18.8%	8.2%	6.2%	2.0%	7.8%	12.6%	4.5%	5.1%	11.3%
ROA	4.6%	7.6%	6.9%	5.2%	2.9%	4.0%	4.1%	2.5%	2.6%	4.6%
研究開発費	1,807	1,659	1,786	2,096	2,035	2,065	2,219	2,289	2,019	2,166
従業員数(人)	1,172	1,182	1,228	1,373	1,418	1,472	1,479	1,496	1,500	1,454

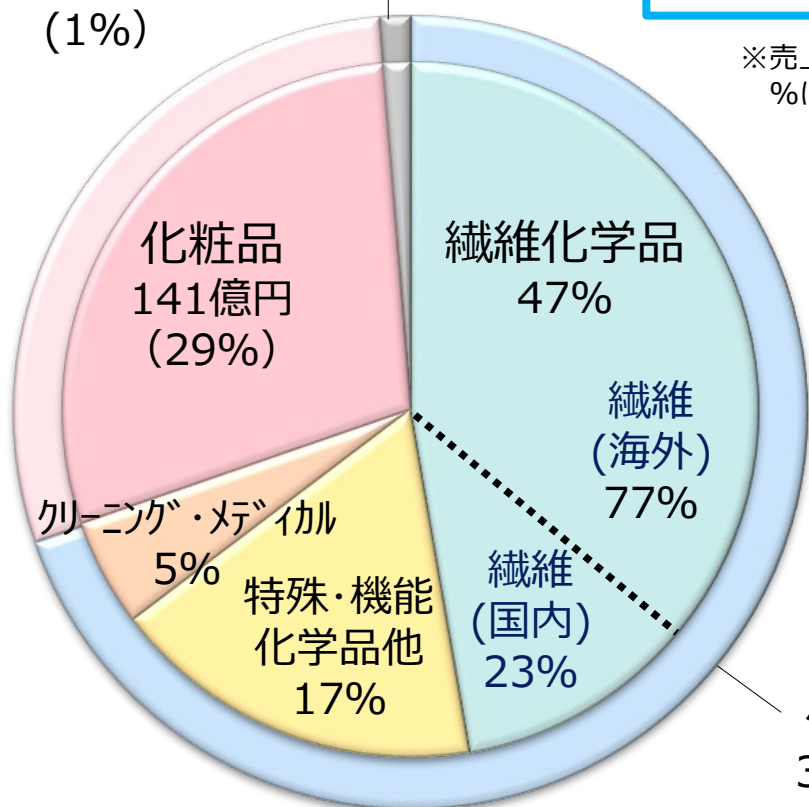
※ 2021年12月期年間配当金のうち期末配当14円については2022年3月25日開催の定時株主総会で決議予定

# 事業所・所在地別 売上高比率

売上高比率は化学品事業で全体の70%、化粧品事業で29%、繊維化学品だけで全体の47%、その内海外が77%、所在地別では海外比率は42%と、いずれも前年とほぼ同じ比率

【事業別売上高比率】

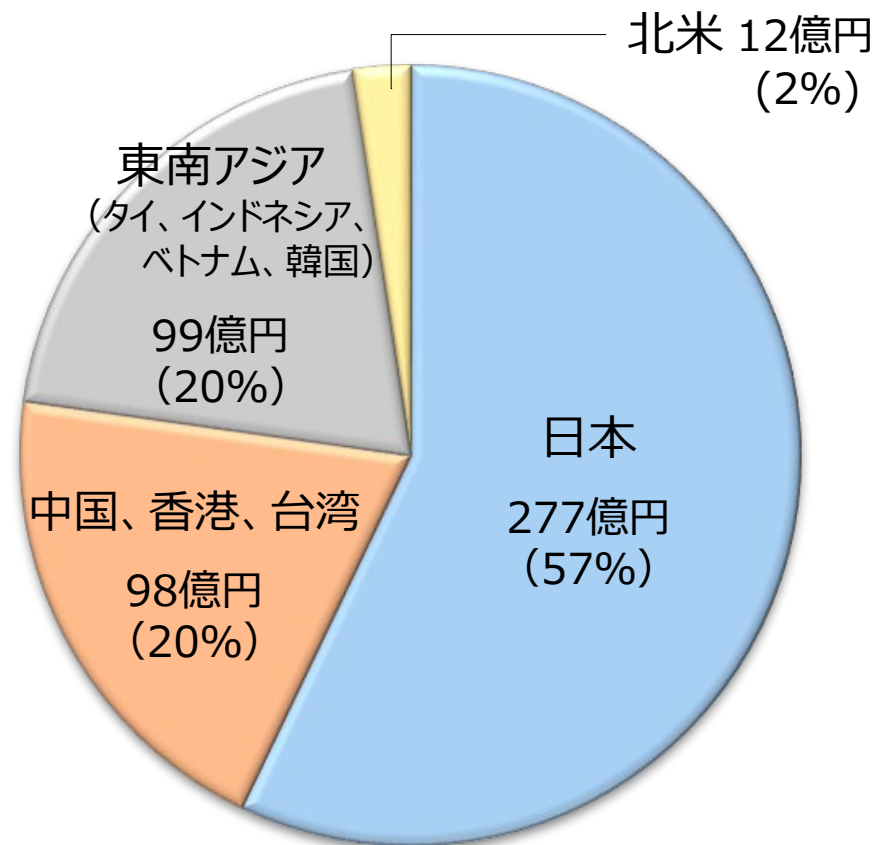
その他 6億円  
(1%)



2021年度 売上高  
484億円

※売上高は億円未満四捨五入  
%は小数点以下四捨五入

【所在地別売上高比率】



商号：日華化学株式会社（証券コード 4463）

本社：福井県福井市文京4丁目23-1

創立：1941（昭和16）年9月15日

資本金：28億9,854万円

発行済株式数：1,771万株

決算期：12月31日

従業員数：連結／1,454名 単体／598名（2021年12月31日現在）

事業内容：繊維を主とする各種産業用界面活性剤および化学品、化粧品等の製造・販売

上場証券取引所：東証1部、名証1部



Activate Your Life



この資料には、2022年2月10日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。  
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

<お問合せ先>

日華化学株式会社 経営企画本部 IR担当

TEL:(0776)25-8584 (直通) FAX:(0776)25-4798

E-mail : matsushima@niccachemical.com